

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800287		
法人名	株式会社 ふく福サービス		
事業所名	グループホーム 唐原 (1階・2階)		
所在地	〒813-0001 福岡県福岡市東区唐原3丁目6番8号 Tel 092-663-8201		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果確定日	平成29年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成29年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした、木造2階建ての施設は、圧迫感無く、生活して頂けると思います。食事を3食、職員の手作りにより提供しており、館内には調理をしている音や匂いが漂い、家庭的な雰囲気を出しております。利用者には、無理の無い程度、生活の中での役割を担っていただきながら、共同で生活していただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム唐原」は、開設時から地域の協力が得られ、町内からの案内で地域行事や活動に利用者と職員が参加し、管理者が、公民館で認知症サポーター養成講座を開催する等、地域との信頼関係を築いている。利用者の希望を聴きながら、博多街並みのドライブや外食、買い物に出かけ、利用者の笑顔に繋がる支援に取り組んでいる。2ヶ月毎に開催する運営推進会議は、多くの家族や地域代表、地域包括支援センター職員、近隣の事業所管理者等が参加し、地域の防災について情報交換しながら、相互協力体制を築いている。利用者や家族の希望する主治医と密に情報交換し、週2回の訪問看護師と連携して、24時間安心の医療体制を整えている。また、利用者の残存能力を活かして、調理やおやつ作りに職員と一緒に取り組み、「食」を楽しむ支援を行い、利用者や家族の信頼も深いグループホーム「唐原」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの心を大切に笑顔あふれるぬくもりのある生活を提供します。」と事業所理念に掲げ地域の中でその人らしく安心して生活していただけるよう全職員サービスの提供に努めている。本年度は理念の見直しも検討したが慣れ親しんだ今の理念が良いとの結論に達した。	ホーム独自の介護理念を掲示し、職員は、理念の意義や目的について理解できるように努力し、気配り、目配り、心配りを常に意識して、職員が笑顔で利用者寄り添い、アットホームな雰囲気グループホームである。また、管理者が常に職員と介護の在り方を話し合い、利用者や家族の満足に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し出来る事から取り組んでいる。町内会の行事、清掃・毎月1回子供会の廃品回収等に参加している。本年度は月1回の地域カフェへ参加したり、地域の河川清掃に参加したり、地域の防災訓練に参加したり、地域支援会議に関わったりと新たな取り組みも始めた。	町内会からの案内で、行事や活動に利用者と職員が参加し、毎月清掃や子供会の廃品回収にも協力している。また、公民館で講座を開催して、介護相談が持ち込まれる等、地域から頼れる事業所として信頼関係を築いている。運営推進会議に地域の方の参加があり、相互協力が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は、区役所での認知症サポーター養成講座の講師を引き受けたり、地域支援会議にてグループホームについて説明させて頂いたり、地域に対しての活動にも積極的に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し地域の方・行政・ご家族、近隣の他事業所に参加いただき入居者様状況、活動報告・質疑応答を行いサービスの向上に活かしている。最近では、入居者の入れ替わりに伴い、現役で仕事をしている家族が増えた為、ご家族の参加者減少、顔ぶれの固定を危惧している。	運営推進会議は、ホームの現状や活動報告、課題、今後の取り組み等を報告し、参加委員からは、多くの意見や要望、情報提供を受け、活発な意見交換会である。家族の要望で介護の勉強会を行う等、充実した会議である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センター職員に運営推進会議に参加いただき情報交換を行っている。その他、施設の待機状況や、空室状況を不定期で提供している。地域支援会議やRUN伴、認知症サポーター養成講座など、行政との情報交換の場を求め、積極的に関わりを持っている。	管理者は行政窓口にも、ホームの空き状況や介護の疑問点、困難事例、事故等の相談を行い、アドバイスや情報を提供して貰い連携を図っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を理解してもらい、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会に参加し内部研修で共有、拘束についてミーティングや申し送りなどで話し合いながら職員の共通認識を図り身体拘束をしないケアに努めている。	外部研修会に参加した職員が、伝達研修で報告し、知識を職員全員で共有している。ミーティングや運営推進会議の中でも話す機会を設け、身体拘束が利用者にも与える影響を理解し、具体的な禁止行為の事例を挙げて、拘束をしない介護サービスに取り組んでいる。また、日中は、玄関の鍵を開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で学んできたことを内部研修やミーティングで話し合い、不適切なケアになっていないか職員同士で指摘し合える環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実例としては、開設以来、制度利用者の入居は無いが、職員のミーティング等で勉強会を開き理解を深めるようにしている。	職員会議の中で、権利擁護に関する勉強会を開催し、職員一人ひとりに理解してもらい、資料を用意して、利用者や家族に入居時に説明している。利用者や家族から相談があれば、制度の内容や申請方法等を説明し、関係機関に繋ぐ支援体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約書、重要事項説明書を用いてご家族に説明している。また、疑問点がある時はその都度説明し、内容変更時には書面を作成し、説明を行う事で理解を求めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者家族へ参加をうながし、意見や要望を表せる機会を設けている。またご意見箱を設置して無記名でも意見や要望を表せるよう配慮している。	日常生活の中から職員は、利用者の意見や要望を聴き取っている。家族の面会時や運営推進会議にたくさんの家族の参加があり、それらの機会に意見や要望を聴き取り、ホーム運営や利用者の介護計画に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、概ね年1回全職員対象のアンケートを実施し、職員の意見を収集、運営に反映するよう努めている。管理者は定期的なミーティングや、不定期で個別面談を行い職員の意見や考えを聞くよう心がけている。そこで聞かれた要望や意見を取りいれるようにし、職員が意見を言いやすいような環境作りを目指している。	毎月1回出勤職員でミーティングを開催している。管理者からの報告と、カンファレンスの中で利用者一人ひとりの状態について意見交換し、情報の共有に努めている。職員から出された意見や要望は、ホーム運営や業務改善に活かせるように取り組んでいる。また、個人面談の実施や、業務の中で、個別に声を掛ける等、管理者が、職員の意見を聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の資格取得に向けた支援を積極的に行い、職員が向上心を持って働けるような環境、組織づくりに積極的に取り組んでいる。介護職員の処遇改善にも前向きに取り組んでいる。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては特に条件は定めていない。事業所で働く職員についても働きやすい環境作りに、配慮している。	職員の募集は、年齢や性別資格等の制限はなく、介護に対する考え等を優先している。職員の休憩時間や勤務体制、希望休に配慮し、リフレッシュしながら、ゆとりを持ってサービス提供が出来るように取り組んでいる。また、外部、内部研修の受講や、毎月各自の目標を定める等、職員一人ひとりの意識の高揚を図り、生き生きと楽しい職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修で人権研修に職員代表を参加させている。研修を受講した職員が講師になって内部研修を開催している。	職員会議や勉強会の中で、利用者の人権を尊重する介護の在り方について、職員間で話し合い、利用者の個性や生活習慣に合わせた介護サービスに取り組んでいる。特に、言葉遣いや対応に注意して、利用者が安心して暮らせるホームを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格習得を奨励し、個々のスキルに応じた、内外の研修を受けられるよう年間研修計画の策定を行い、研修機会の確保に配慮している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの訪問・見学等、情報交換を行いお互いが資質向上に繋がるように取り組んでいる。また、運営推進会議へ相互に出席するなどし、それぞれの施設の情報をやりとりしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの要望や意見を言いやすい環境を作りフェイスシート等を参考にしながらより良く暮らせるための介護計画の見直しを行いながら信頼関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族構成を把握し、ご家族からの想いや要望に耳を傾け対話を繰り返しながら信頼関係づくりに努めている。可能な限りの支援を行う事は伝えながらも、ご家族と本人の関係が疎遠にならないよう、ご家族の負担にならない程度の役割を持ってもらうよう意識している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談段階において本人・家族が何を必要としているのかを伺いながら、グループホーム入居を前提とせず「その時」必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めた支援の可能性を提示出来る様な対応を意識している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人が出来ることや役割をもって自分らしい生活をして頂けるよう心掛け、暮らしを共にする者同士の関係を築けるようサポートしている。共に家事を行ったり、何気ない相談を受けたりすることで、支援する側、受ける側の関係をより近づけ、本人が悩みを打ち明けやすい関係の構築を意識している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等には、家族の参加を促し共に過ごす時間を増やす工夫を行っている。可能な限りの支援は行いながらも、ご家族の役割作りにも気を配り、施設に預けっ放しにならない様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にされてきた思い出の場所や人間関係など疎遠にならないようご家族にもお願いし面会や外出などの機会をもち関係が途切れないよう心掛けています。地域から入居されている方は特に、地域行事へ参加して頂き、馴染みの方々とのコミュニケーションが保たれるように支援しています。結果として実際に面会が増えた入居者も居る。	利用者の友人、知人の面会を歓迎し、いつでも面会出来るように支援している。地域の行事に参加し、利用者の友人、知人から声を掛けられたり、ホーム内で知り合い同士が行き来している。また、家族の協力を得て、買い物や外食、外泊に出掛けてもらい、利用者が長年築いてきた馴染みの関係が継続出来るように取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの様子や言動を観察し、対立・孤立しないよう利用者様同士の関係を把握しスタッフも思いやりを持って接するように努めている。関係悪化の様子が見られた場合は、座席の変更など行い更なる関係悪化を予防するよう対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様や、ご家族に困った事や相談事がある際は、遠慮なく声かけて頂き、必要に応じて支援出来る様に努めている。退去後に利用されるサービス事業者とも、連携を取りフォローできる体制に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人の思いなど希望を聞きながら、可能な限り本人の意向に添えるよう努めている。集団で会話を楽しむ時間と、個別に話をする時間は意識して分けたり、大事な話は管理者が直接聞くなど、個々の不安を聞き出しやすいような配慮をしている。	職員は、日常会話を通して、利用者の意向や希望を引き出し、家族と相談して利用者の要望に、できるだけ応えるようにしている。また、レクリエーションに関しても、強制はせず、個人活動をしたり、居室でテレビを観る等、利用者の思いや意向を尊重した支援に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生き方・暮らし方・生活環境または思い出、入居に至るまでのサービス利用の経過等を本人やご家族に聞き取り、シートにまとめ職員が把握できるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の一日の過ごし方や行動パターン、また精神状態や体調など日々観察しながら現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の望む生活の支援に向けて、本人、ご家族を始め、各関係者と話し合いを行い、様々な意見やアイデアを反映しながら現状に応じた介護計画を作成している。	家族面会や運営推進会議参加の時に、職員は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聴き取り、ケア会議の中で職員間で話し合い、前回の介護計画の実施状況や目標達成状況を確認し、その結果も踏まえて介護計画の作成を6ヶ月毎に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子変化は常に注意を払って介護記録に記入し、常に職員間で情報共有し実践に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎週末、自宅への外泊を希望している入居者へ、それを実現へと支援したり、デイサービスの利用を希望している入居者へ、サービス利用への支援をしたり、外部リハビリを希望している利用者に事業所の紹介を行ったりと、施設内にとどまらず、入居者のニーズをかなえる為の支援に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様・地域住民・民生委員の方との関係を深め、本人の心身の力を発揮しながら、日々の生活を楽しめるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望を優先し、希望であればこれまでのかかりつけ医に継続して受診できるようサポートしている。各かかりつけ医には、直接訪問や書面にて本人の状況を伝え、指示指導を受けながら、本人が望む、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望を大切にし、これまでのかかりつけ医の受診が継続出来るよう、利用者の健康状態を記録した医師宛の手紙を家族から、渡してもらっている。家族が受診同行出来ない時や、3ヶ月に1度の受診時には管理者が同行し、医師との信頼関係を築いている。また、協力医療機関の医師による往診体制も整い、24時間安心できる医療体制が確立している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐しておらず、介護職が得た情報を、管理者を通じて非常勤看護師に提供、協議の上、支援方針を決めている。可能な限りDr往診時には立ち会っていただいている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず情報提供を行っている。入院中は管理者が outgoing 状況を確認すると共にソーシャルワーカーとの連絡を密にし早期退院に努めている。家族とも定期的に連絡をとり情報収集を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明に加え、重度化指針の説明を行っている。退院時は医師とご家族の面談に可能な限り立ち合うなどして、終末期にむけてご本人ご家族の意向が反映できるよう、協力関係機関との連携を図っている。	「重度化の指針」を基に、契約時に利用者や家族に、ホームで出来る事、出来ない事を明確にして、承諾を得ている。今のところ、口から食事が出来なくなった時が限界と考えてはいるが、利用者の状態に合わせて、段階的に家族、主治医等、関係者で話し合い、ぎりぎりまでホームで生活出来る支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	採用時、導入研修にて急変時や事故発生トラブル対応の研修を行うとともに、フローチャートをホールの目にしやすいところに設置し、事故発生時に対応できるようにしている。また、24時間管理者がオンコール対応を行い、夜間も職員のフォローが出来るようにしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	熊本の震災を受け、全社で災害対策チームを発足し災害時の実行可能な対策を検討中。9/1には、全社一斉の地震災害訓練を実施した。地域の災害訓練にも参加している。	消防署の協力を得て年2回避難訓練を実施し、夜間想定では、夜勤者1名で、2階の利用者9名を一時避難場所であるベランダに誘導し、消防車の救出を待つ体制を整えている。非常災害時には、地域住民と相互に協力出来るように日頃から話し合い、相互防災対策に取り組んでいる。また、非常用の飲料水は備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	利用者一人ひとりのプライバシーを尊重する介護の在り方を、職員間で話し合い、使用するトイレを男女で分ける等、利用者のプライドや羞恥心に配慮して対応している。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により、希望の表出や自己決定も困難な時はあるが、可能な限り本人の思いや希望、気持ちを傾聴し自己決定出来るように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその時その時の表情や顔色など状態観察を行いながら、会話によるコミュニケーションを増やし、その時々、本人の希望に添った生活が送れるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれにあまり関心のない方もいらっしゃるが、訪問理美容を利用し髪そりやカット・ヘアカラーをすることで気分転換を図り、外出時にはおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。起床時、就寝時には、スキンケアを行う利用者も居り、道具の準備などの支援をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつも一緒に食事作りというのは難しいが、食レクや誕生会では当事者の意見を聞きながら、献立の決定など行っている。また、入居者の嗜好に応じた食事になるよう、調理方法や味付けの工夫を行うなど、食事が楽しいものになるような工夫をしている。	業者から配達された食材を職員が利用者の状態や好みに配慮しながら調理し、手作りの美味しい食事を提供している。毎日の生活の中に、自分で出来る役割がある事を目指して、食器洗い、食器拭き、包丁を使つての下拵えをしてもらっている。また、誕生日のケーキ作り等、「作る」に参加する事で利用者の意欲を引き出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、主治医と相談しながら食事形態や味付けを調整している。ヨシケイの献立を利用する事によって偏りの無い食事の提供を心がけている。食事・水分量については、摂取量を記録し常に把握できるように対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に清潔保持のため口腔ケアを行っている。義歯の洗浄、管理を確実にできるように支援している。歯科による居宅療養管理指導も希望者のみ利用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に応じた、排泄の声掛けやトイレ誘導を行っている。排泄パターンを把握し声かけをすることで、できる限りトイレを使用して頂き、排泄の自立に向けた支援をしている。また状況に応じた陰洗・清拭を実施して清潔保持に努めている。	利用者が重度化しても、トイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、一人ひとりの状況に応じて声掛けを行い、出来ない所を職員が手伝い、極力自力でトイレでの排泄が行えるよう支援している。また、夜間も、利用者の状態に合わせてトイレ誘導やポータブルトイレを使用する等して、簡単にオムツを使用しない支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて確認している。牛乳やヨーグルトを提供し本人様の状態を観察しながら支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて対応を行っている。季節に合った室温・湯温を調整し快適に入浴して頂けるよう支援している。入浴拒否がある際は時間を置き再度声掛けを行ったり、日を改めるなどの対応を行っている。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮しながら、安全で気持ちの良い入浴になるよう取り組んでいる。また、入浴は、利用者の全身の状態を観察できる機会であると同時に、利用者職員が1対1でゆっくり話し合える貴重な時間と捉え、職員は、この機会を大切に、入浴の支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し安心して気持ちよく良眠して頂けるよう支援している。本人様の体調に合わせて午睡も取りいれながら支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や内容を理解し、服薬の支援を行っている。看護師との情報の共有を図り、状態変化の観察に努めながら、主治医に報告し指示を受け対応している。薬の飲み合わせ等の管理については調剤薬局にも支援していただいている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味を活かし日々の生活に取り入れ張りのある生活を過ごせるようにして行きたいと努力している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候に合わせてホームの近隣を散歩したりしている。又、地域の行事に参加したり、外出レクを企画し家族にも協力を依頼しながら、季節感を感じてもらえる支援をしている。	利用者一人ひとりの心身の状態に合わせて、散歩のコースや時間の長さを変えながら、個々に合った散歩に取り組んでいる。また、地域の行事への参加や外出レクとして、飾り山見学、天神、博多の街並みドライブ、コスモス見学、ウインドウショッピングに出かけ、家族の協力を得ながら、利用者の楽しみの支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つ大切さは理解しているが、認知症により、失くしたり、物盗られ妄想に発展したりと、実際に、お金を所持していただくのは現状難しい。欲しいものがある時にはホームから立て替えて買い物できるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの入居者様もあり、自由に連絡されている。要望があればご家族に連絡し、話が出来るように支援している。本人が書いた手紙を、ポストに入れるなどの支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には入居者様の趣味を活かした絵や手作りの人形・季節感を採り入れたレク等の作品を展示し居心地のよい生活空間作りに努めている。	ユニット毎に、ここで暮らす利用者に合わせた共用空間となるよう、利用者と職員が作る作品や季節に因んだ物、観葉植物等を飾り、アットホームな雰囲気である。広い共用部分を活かし、ボールを使ったレクで盛り上がりだったり、テーブルで個別の作業に取り組む等、利用者一人ひとりがその人らしく過ごしている。また、換気や清掃が行き届き、利用者が気持ちよく暮らせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はゆったりしており、食堂と居間スペースが分かれていて、その時々々の気分に応じて思い思いに過ごせる居場所が確保できるよう、ソファの配置などに気を配っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまでで使用しておられた家具や、写真など思い出の品々を持ち込んでいただき、ゆっくとくつろげる自分の部屋である事が認識できるような居場所作りを支援している。	利用者が長年使い慣れた大切な物を、家族と相談しながら持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように支援し、利用者の動線に気をつけて、家具等を配置し、使いやすく安全に暮らす事が出来るよう、配慮している。また、居室の換気、清掃をこまめに行い、気持ちよく過ごせる居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの認知症状も様々であるが、出来る事を重視し、安全かつ安心して可能な限り自立した生活が送れるよう支援している。		